

令和 7 年度 福岡市薬物乱用防止対策推進協議会 次 第

日時：令和 8 年 1 月 1 3 日（火）

1 6 : 0 0 ~ 1 7 : 3 0

場所：あいれふ 第 2 研修室

1 開 会

2 委員紹介

3 会長及び副会長の選出

4 議 事

(1) 令和 6 年度活動報告及び今後の取組について

(2) 最近の薬物乱用の情勢について

(福岡県警察本部暴力団対策部薬物銃器対策課)

(3) 九州厚生局麻薬取締部の再乱用防止支援事業紹介

(厚生労働省九州厚生局麻薬取締部調査総務課)

(4) 大麻と OD の最新情報から薬物乱用防止を考える！

(福岡大学薬学部 薬学教育センター・薬学教育学研究室
生体機能制御学研究室 三島 健一 教授)

(5) その他

5 閉 会

資料一覧	
資料1	令和7年度福岡市薬物乱用防止対策推進協議会 次第(本紙)
資料2	福岡市薬物乱用防止対策推進協議会設置要綱
資料3	福岡市薬物乱用防止対策推進協議会委員等名簿
資料4	福岡市薬物乱用防止対策推進協議会座席表
資料5	令和7年度福岡市薬物乱用防止対策推進協議会 薬物乱用防止対策活動 資料

福岡市薬物乱用防止対策推進協議会設置要綱

(設置目的)

第1条 薬物乱用問題について、早期の予防教育や地域での啓発指導の充実を図り、総合的かつ効果的な防止対策を推進するため、関係機関相互の緊密な連携及び啓発活動を目的とし、福岡市薬物乱用防止対策推進協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

(構成)

第2条 協議会の構成は次のとおりとする。

- (1) 会長、副会長、委員、幹事
- (2) 会長は委員の互選により定める。
- (3) 副会長は会長の指名により定めるものとし、会長を補佐し、会長に事故ある時は、その職務を代行する。
- (4) 委員は関係機関の長又は機関の長が適当と認めた職にある者を充てる。
- (5) 幹事は関係機関等の職員を充てる。

(任期)

第3条 委員及び幹事（以下「委員等」という。）の任期は2年とする。ただし、任期中であっても本来の職を離れたときは委員等の職を失い、本来の職の後任のものが委員等の職を引き継ぐ。

- 2 補欠及び増員により選任された委員等の任期は、前任者又は現任者の残任期間とする。
- 3 委員等の再任は妨げない。
- 4 委員等は任期終了後であっても次期改選までは委員等の職を務める。

(会議)

第4条 会議は、協議会及び幹事会とする。

- 2 協議会は、必要に応じて会長が召集し、会長が議長を務める。
- 3 会長は、必要があると認めるときは、協議会に関係者の出席を求め、その意見または説明を聞くことができる。

(活動内容)

第5条 協議会は、次に掲げる事項について協議する。

- (1) 薬物乱用防止対策に関する総合的な計画の検討
- (2) 各関係機関相互の情報交換
- (3) 地域住民や他の関係機関への啓発・広報活動

(事務局)

第6条 事務局は福岡市保健医療局保健所地域衛生部医薬務・衛生推進課に置く。

(委任)

第7条 この要綱に定めるもののほか、協議会に必要な事項は会長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成12年8月17日から施行する。

附 則

この要綱は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成18年6月12日から施行する。

附 則

この要綱は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、令和5年3月7日から施行する。

附 則

この要綱は、令和6年10月11日から施行する。

令和 7 年度福岡市薬物乱用防止対策推進協議会 委員等名簿

	関係機関等	役職等	氏名
委員	福岡市薬剤師会	会 長	木原 太郎
〃	福岡大学	教 授	三島 健一
〃	福岡市医師会	常任理事 (小児科医)	植山 奈実
〃	福岡市医師会	常任理事	早渕 雅樹
〃	福岡市薬剤師会	副会長	竹野 将行
〃	福岡県警察本部生活安全部少年課	課 長	的野 史孝
〃	福岡県警察本部暴力団対策部薬物銃器対策課	課 長	古川 尚史
〃	福岡市保護司会連絡協議会	事務局長	渡邊 奈留美
〃	福岡市青少年育成連絡会	会 長	堤田 寛
〃	福岡市子ども会育成連合会	副会長	吉田 直信
〃	福岡市 P T A 協議会	副会長	堀 円
〃	福岡市民生委員児童委員協議会	副会長	清成 厚美
〃	福岡市衛生連合会	会 長	石井 早苗
〃	西南学院大学学生支援部学生課	課 長	渡辺 清仁
〃	第一薬科大学	副学長	大光 正男
〃	福岡市こども未来局	理 事	村上 洋子
〃	福岡市教育委員会	教育次長	福田 大二郎
〃	福岡市区長会	早良区長	三宅 宏治
〃	福岡市市民局	理 事	高橋 嘉隆
〃	福岡市保健医療局	理 事	田中 雅人
幹 事	福岡市薬剤師会	常務理事	吉村 宏
〃	福岡県警察本部生活安全部少年課	課長補佐	川崎 和範
〃	福岡県警察本部暴力団対策部薬物銃器対策課	課長補佐	小野 聡
〃	福岡保護観察所処遇部門	統括保護観察官	山村 香織
〃	福岡市こども未来局こども政策部こども健全育成課	課 長	香月 千恵
〃	福岡市こども未来局こども総合相談センター連携支援担当	課 長	久保 健二
〃	福岡市教育委員会教育支援部健康教育課	課 長	松吉 泰直
〃	福岡市教育委員会指導部中学校教育課	課 長	竹内 義則
〃	区青少年担当代表（南区総務部企画振興課）	課 長	吉村 公孝
〃	福岡市市民局生活安全部防犯・交通安全課	課 長	米倉 照貴
〃	福岡市保健医療局保健所精神保健・難病対策部精神保健・難病対策課	課 長	水崎 亜紀
〃	福岡市保健医療局健康医療部精神保健福祉センター	副所長	畑江 君枝
〃	福岡市保健医療局保健所地域衛生部医薬務・衛生推進課	課 長	肥前 昌一郎

(事務局) 福岡市保健医療局保健所地域衛生部医薬務・衛生推進課

福岡市薬物乱用防止対策推進協議会座席表

令和8年1月13日(火) 16:00~17:30

あいれふ 第2研修室

福岡市薬剤師会
キハラ
木原 委 員

福岡大学
ミシマ
三島 委 員

	○	○	
福岡市薬剤師会 タケノ 竹野 委 員	○	○	福岡県警察本部少年課 少年健全育成室課長補佐 カワサキ 川崎氏(代理出席)
福岡市医師会 ハヤフチ 早 渕 委 員	○	○	福岡県警察本部薬物銃器対策課 課長補佐 オノ 小野氏(代理出席)
福岡市保護司会連絡協議会 ワタナベ 渡 邊 委 員	○	○	福岡市青少年育成連絡会 ツツミダ 堤 田 委 員
福岡市子ども会育成連合会 ヨシダ 吉 田 委 員	○	○	福岡市民生委員児童委員協議会 キヨナリ 清 成 委 員
福岡市PTA協議会 ホリ 堀 委 員	○	○	福岡市衛生連合会 イシイ 石 井 委 員
西南学院大学 ワタナベ 渡 辺 委 員	○	○	福岡市子ども未来局 ムラカミ 村 上 委 員
第一薬科大学 オオミツ 大 光 委 員	○	○	福岡市教育委員会 フクダ 福 田 委 員
福岡市区長会 ミヤケ 三 宅 委 員	○	○	九州厚生局麻薬取締部 カトウ 加 藤 氏
福岡市市民局生活安全部長 ワシズ 鷺 頭 氏(代理出席)	○	○	九州厚生局麻薬取締部 スズキ 鈴 木 氏
福岡市保健医療局理事 タナカ 田 中 委 員	○	○	九州厚生局麻薬取締部 オオツ 大 津 氏

議事関係者

事務局

随行者席

資料 5

令和7年度福岡市薬物乱用防止対策推進協議会 薬物乱用防止対策活動 資料

資料目次

令和6年度活動報告

関係機関等名称	該当ページ
(1) 福岡県警察本部	
①生活安全部少年課	1
②暴力団対策部薬物銃器対策課	2
(2) 一般社団法人福岡市薬剤師会	3～4
(3) 福岡保護観察所	5
(4) 福岡市関係各局	
①こども未来局こども総合相談センター	6
②こども未来局こども健全育成課	7
③各区企画振興課等	8～10
④教育委員会中学校教育課	11
⑤市民局防犯・交通安全課	12
⑥各区健康課、精神保健・難病対策課	13
⑦保健医療局精神保健福祉センター	14
⑧保健医療局医薬務・衛生推進課	15～16

令和6年度活動報告

所属	福岡県警察本部生活安全部少年課	担当者	川崎、山崎	電話番号	092-641-4141	内線()	3076
目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大麻乱用防止に重点を置いた薬物乱用防止教育及び広報啓発活動の推進 ○ 薬物乱用少年等の検挙・補導活動 ○ 薬物乱用少年に対する立ち直り支援活動(大麻再乱用防止) 						
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小・中・高校生を対象とした薬物乱用防止教室の開催 ○ Jリーグチームと共同した広報啓発動画の制作、SNSや動画配信アプリ(YouTube)、デジタルサイネージを活用した広報啓発活動 ○ 薬物乱用少年の検挙・補導活動並びに少年に対し薬物を売買又は譲渡等する者(福祉犯被疑者)の取締り ○ 薬物依存等の問題を抱える少年に対する相談受理及び他機関と連携した立ち直り支援活動(F-CANを活用) 						
対象者	<ul style="list-style-type: none"> ○ 広報啓発活動の対象者として、小・中・高校生、有職・無職少年等 ○ 取締り対象者として、薬物乱用少年並びに少年に対し薬物を売買又は譲渡等した者(福祉犯被疑者) ○ 立ち直り支援対象者として、薬物依存等の問題を抱える少年とその保護者 						
全体の評価	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小・中・高等学校等における薬物乱用防止教室(非行防止教室を含む)において、大麻乱用防止に重点を置いた指導・教育を実施した。 ○ 県薬務課、福岡市教育委員会等の関係機関、Jリーグチームと連携した広報啓発活動を実施した。 ○ 福岡市の大麻乱用少年の検挙人員は、令和6年中32人(前年比-12人)と前年より減少したものの、引き続き高い水準となっている。 						
令和7年度の取組方針、改善事項等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本年度も引き続き大麻乱用防止に重点を置いた薬物乱用防止教室を小・中・高校生を中心に開催していく。 ○ 有職・無職少年の薬物乱用防止対策として、SNS(X)や動画配信アプリ(Youtube)、街頭ビジョンを活用した広報啓発活動を推進していく。 ○ 県薬務課と協働し、引き続き少年用大麻再乱用防止プログラム(F-CAN)を推進していく。 						

令和6年度の年間活動報告

実施時期	活動内容	実施場所	参加者(対象者)		講師等	教材、資料	連携機関		活動ごとの評価	
			種別	人数			共催	協力		
令和6年中	薬物乱用防止教育	福岡市内	小学校	1,504人	福岡少年サポートセンター ・警察官 ・少年補導職員 ・少年相談専門員	パワーポイント	福岡市教育委員会		令和6年中 12,492人 (前年比+3,607人)	
			中学校	5,612人		リーフレット				
			高校	5,376人		啓発DVD				
令和6年中	インターネット、SNS等を活用した広報啓発活動	市内全般			少年課	動画配信(Youtube)	県薬務課		・街頭ビジョン(ソラリアビジョン、TAMAYAビジョン)や玉屋ビジョン等に啓発動画を放映 ・NO DRUG.KNOW DRUGキャンペーン参加	
						SNS(X)				
						リーフレット				
令和6年中	薬物乱用少年等の検挙補導	福岡市内	シンナー乱用少年	0人	警察署				・前年比 シンナー乱用少年 ±0人 覚醒剤乱用少年 ±0人 大麻乱用少年 -12人	
			覚醒剤乱用少年	3人						
			大麻乱用少年	32人						
令和6年中	少年相談の受理 立ち直り支援活動	福岡市内	シンナー乱用関係	0人	福岡少年サポートセンター ・警察官 ・少年補導職員 ・少年相談専門員	ワークブック	県薬務課	児童相談所	・前年比 シンナー乱用関係 ±0人 覚醒剤乱用関係 ±0人 大麻乱用関係 +1人	
			覚醒剤乱用関係	0人		リーフレット				保護観察所
			大麻乱用関係	5人						医療機関

令和6年度活動報告

所属	福岡県警察本部暴力団対策部薬物銃器対策課	担当者	小野、羽生	電話番号	641-4141	内線	(3272、3273)		
目標	薬物乱用者の徹底取締り及び薬物密売組織等供給源の遮断								
活動内容	薬物乱用者の徹底検挙及び薬物供給源の壊滅と資金源剥奪に向けた取締りの推進 若年層を中心に大麻の有害性・危険性を認識させる大麻乱用防止の広報啓発活動の推進								
対象者	市民全般								
全体の評価	地域警察官による街頭活動及び薬物乱用者に対する取締りの検挙者は、全薬物事犯885人(前年比-37人)で覚醒剤事犯検挙者342人(前年比-29人)、大麻事犯検挙者466人(前年比-9人)といずれも減少となった。また大麻事犯の検挙者のうち若年層の割合は約76.6%(前年比-3.6%)と減少したものの、依然として高水準で推移しており、更なる若年層に対する大麻乱用防止対策の強化が必要である。								
令和7年度の取組方針、改善事項等	薬物乱用者及び薬物供給者の徹底検挙 若年層に対する大麻乱用防止を中心とした広報啓発活動を継続し、薬物乱用防止対策の強化が必要である。								
令和6年度の年間活動報告									
実施時期	活動内容	実施場所	参加者(対象者)		講師等	教材、資料	連携機関		活動ごとの評価
			種別	人数			共催	協力	
通年	違法薬物乱用者及び密売事犯の検挙 水際対策による薬物密輸事件の検挙	県警本部及び県内各警察署	被疑者	885			検察庁 麻薬取締部 門司税関 海上保安庁	麻薬取締部と連携し、大麻栽培事件及び覚醒剤密売事件を検挙。 門司税関と連携し、覚醒剤・大麻等密輸入事件を検挙。	
通年	薬物事犯者に対する再乱用防止に関する指導の実施	県警本部及び県内各警察署	乱用者	374		リーフレット等	検察庁	初犯者に対するリーフレット等の配布を実施。	
通年	薬物乱用防止講演		大学生	約7740	警察官	リーフレット パワーポイント		年間を通して県内大学において薬乱講義を実施。	

令和6年度活動報告

所属	一般社団法人 福岡市薬剤師会	担当者	吉村 宏	電話番号	092-714-4416	内線()			
目標	青少年が薬物に関する誤った情報に惑わされず、自ら健康と命を守る判断ができるようにするため、正しい知識の普及と意識の啓発を行う。								
活動内容	福岡市、FM福岡、福岡市薬剤師会の三者主催で継続している「NO DRUG,KNOW DRUGキャンペーン」は、更に連携の輪を広げ市民の薬物乱用防止意識の向上を目指す。 SNS,WEB配信等を活用し若年層に向けての情報発信を行う。今年度も、特に増加傾向にある「市販薬の過剰摂取(オーバードーズ)」「大麻に関する正しい情報」を2つのテーマとして取り組む。 継続開催している「福岡市薬物乱用防止街頭キャンペーン」を大学等で開催し、「政令指定都市薬剤師会統一薬物乱用防止キャンペーン」の継続参加実施を目指す。学校、地域における講演活動の充実を図り、児童、生徒、学生及び市民の薬物乱用防止意識の向上を目指す。								
対象者	児童・生徒・学校関係者および一般市民								
全体の評価	少年の大麻の乱用は増加傾向にあり、10代20代が顕著である。薬物乱用防止の基本は「正しい知識」の普及である。小中学生、高校生だけでなく、大学生及び社会人に対しても、薬物乱用防止の啓発、特に「大麻」の正しい知識の普及に注力した。「向精神薬」や「一般用医薬品」の乱用防止の基本は「くすりの正しい使い方」であり、薬剤師職能として取り組む								
令和7年度の取組方針、改善事項等	若年層が日常的に利用するSNSや動画配信サービスを通じて、正しい薬物知識と危険性を効果的に伝え、薬物乱用の未然防止につなげるために、予算配分を含めた施策の検討を行い、効果的な情報提供を実施する。								
令和6年度の年間活動報告									
実施時期	活動内容	実施場所	参加者(対象者)		講師等	教材、資材	連携機関		活動ごとの評価
			種別	人数			共催	協力	
令和6年4月 ～令和7年3月	学校、地域における薬物乱用防止、喫煙・飲酒防止、くすり教育の講演活動	学校、地域	児童、生徒、保護者、学校関係者、地域市民		学校薬剤師				
7月5日	薬物乱用防止啓発街頭キャンペーン	福岡大学構内	会員、教職員、大学生				福岡市薬剤師会	<主催>福岡市	
7月20日	政令指定都市薬剤師会統一薬物乱用防止キャンペーン	博多駅前	一般市民		薬剤師		福岡市	<主催>福岡市薬剤師会	
7月28日	第75回指定都市学校保健協議会	札幌市	薬剤師	3人		現地		日本薬剤師会、文科省、日本学校保健会	

7月1日～9月1日	NO DRUG,KNOW DRUGキャン ペーン	・FM福岡から啓発コメ ント放送 ・会員薬局での啓発 活動 ・会員薬局、学校、公 民館その他協力団他 での啓発ポスター掲 示 ・協力団体で啓発ポ スターをデジタルサイ ネージで放映 ・啓発ラジオ番組制 作・放送(FM福岡よ り)	一般市民					<主催>福 岡市、FM福 岡、福岡市 薬剤師会	SNS等の配信により若 年層に届けることが出 来た。またイベント終 了後においても閲覧数 が増える結果となっ た。
	NO DRUG, KNOW DRUG啓発 イベント	・三井ショッピング パーク ららぽーと 福岡	一般市民						
9月8日	NO DRUG,KNOW DRUG 啓発 イベント特別番組	FM福岡ラジオ番組	一般市民		薬剤師			<主催>福 岡市、FM福 岡、福岡市 薬剤師会	
9月22日～23日	第57回日本薬剤師会学術大会	さいたま市	学校薬剤師	2人		現地・WEB 配信		日本薬剤師 会	
10月～11月	各区健康フェア		一般市民		薬剤師			各区保健福 祉センター	
10月24日～25日	令和6年度学校環境衛生・薬事 衛生研究協議会	富山市	学校薬剤師	2人		現地		文科省、日 本学校保健 会	
11月7日～8日	令和6年度全国学校保健・安全 研究大会	宮崎市	学校薬剤師	6人		現地・WEB 配信		文科省、日 本学校保健 会	
11月7日	第74回全国学校薬剤師大会	宮崎市	学校薬剤師	6人		現地・WEB 配信		日本薬剤師 会	
1月	「喫煙・飲酒・薬物乱用防止に 関する図画ポスター」優秀作品 の福岡市薬剤師会会長表彰		表彰人数 小学生3名 中学生3名					<主催>福 岡市学校保 健会	
2月1日	第28回福岡市学校薬剤師研究 大会	福岡市	薬剤師	全会員対 象				福岡市薬剤 師会	

令和6年度活動報告

所属	福岡保護観察所	担当者	山村	電話番号	092-761-6799
目標	薬物再乱用防止プログラムの確実な実施及び関係機関との連携強化を図る。				
活動内容	対象者一人一人に応じた薬物再乱用防止プログラムを実施する。また、当該プログラム終了後を見据えて、本人に必要な支援をアセスメントした上で支援体制を構築できるよう、地域の支援機関の情報を収集し、対象者や家族に情報提供するなど積極的に働きかけを行う。				
対象者	保護観察対象者等				
全体の評価	①薬物再乱用防止プログラムについて、大麻事犯者の増加に伴い、新たに大麻用の集団プログラムを開始した。 ②地域の支援機関・団体等との連携強化のため、行政機関及び医療機関の職員に当庁のプログラムを見学していただいた。 ③薬物依存に係る保護司向けの研修動画を作成し、各保護司会において受講していただいた。				
令和7年度の取組方針、改善事項等	保護観察対象者等に対し、必要な支援をアセスメントした上で支援体制を構築できるよう、地域の支援機関・団体等の情報を収集し、保護観察対象者等や家族に情報提供するなど積極的に働きかけを行い、息の長い支援を図る。				

令和6年度の年間活動報告

実施時期	活動内容	実施場所	参加者(対象者)		講師等	教材、資料	連携機関		活動ごとの評価
			種別	人数			共催	協力	
通年	薬物再乱用防止プログラム	福岡保護観察所	保護観察対象者	170名 (実人員)	保護観察官及び協力者(心理士)	薬物再乱用防止プログラムワークブック		ダルク マック AA	新たに大麻事犯者の集団プログラムを開始した。
年1回/年2回	依存症を理解する研修(動画)/引受人会(2回)	福岡保護観察所(飯塚駐在官事務所含む)	保護司引受人	引受人会各20名程度	九州大学/医療機関・福岡市精神保健福祉センター			講師等同じ	対象者の身近な支援者に依存症の理解を深めさせるとともに、地域の支援に繋がりにくいように社会資源を紹介する。
通年	F-can(少年用大麻プログラム)への動機付け	福岡保護観察所	保護観察対象者(少年)	要件該当者	福岡県警少年サポートセンター			講師等同じ	少年の大麻事案に対して、F-canへの動機付けを行う。
通年	ボイスブリッジプロジェクトのリクルート活動	福岡保護観察所	保護観察対象者	要件該当者	福岡県・福岡市精神保健福祉センター			講師等同じ	薬物事犯者に対して、ボイスブリッジプロジェクトへの参加を促す。

令和6年度活動報告

所属	こども未来局こども総合相談センター	担当者	宮川	電話番号	707-7572	内線()			
目標	こどもや子育てに関するさまざまな相談に対して、児童相談所での面接の導入や、相談先の案内等を実施する。								
活動内容	電話による相談対応								
対象者	福岡市に居住するこどもやその家族等								
全体の評価	おおむね順調								
令和7年度の取組方針、改善事項等	令和6年度の取り組みを継続する。								
令和6年度の年間活動報告									
実施時期	活動内容	実施場所	参加者(対象者)		講師等	教材、資材	連携機関		活動ごとの評価
			種別	人数			共催	協力	
通年	電話による相談対応	こども総合相談センター	電話相談	11,761	相談員は、臨床心理士等の有資格者等			福岡少年サポートセンター	児童相談所での面接の導入や、相談先の案内等を実施した。
			※このうち、薬物を主訴とする相談は0件						

令和6年度活動報告

所属	こども未来局こども健全育成課	担当者	中村	電話番号	711-4188	内線(1764)		
目標	青少年の薬物乱用防止を図る。								
活動内容	イベントの場などを利用し、啓発を実施する。								
対象者	令和6年度中に20歳となる者。								
全体の評価	薬物乱用防止に係る啓発活動を行うことができた。								
令和7年度の 取組方針、 改善事項等	令和7年度中に20歳となる者に、薬物乱用防止の啓発を実施する。								
令和6年度の年間活動報告									
実施時期	活動内容	実施場所	参加者(対象者)		講師等	教材、資材	連携機関		活動ごとの評価
			種別	人数			共催	協力	
1月13日	成人の日記念行事式典の開会前に、薬物乱用防止動画を上映し、啓発を行った。	マリンメッセ福岡A館	20歳となる者						

令和6年度活動報告

実施時期		活動内容	実施場所	参加者(対象者)		講師等	教材、資材	連携機関		活動ごとの評価
				種別	人数			共催	協力	
令和6年度の年間活動報告										
所属		各区企画振興課等(こども未来局こども健全育成課)								
		東区生涯学習推進課		担当者	坂本	電話番号	645-1121	内線	(141-470)	
		博多区地域支援課		担当者	鶴賀	電話番号	419-1043	内線	(142-351)	
		中央区企画振興課		担当者	西岡	電話番号	718-1055	内線	(143-416)	
		南区企画振興課		担当者	橋本	電話番号	559-5064	内線	(144-236)	
		城南区企画振興課		担当者	石松	電話番号	833-4065	内線	(190-226)	
		早良区地域支援課		担当者	林	電話番号	833-4403	内線	(145-437)	
		西区企画振興課		担当者	松本	電話番号	895-7033	内線	(191-229)	
東区	6月8日	東区少年愛護パトロール員の研修会において、薬物乱用をはじめとする少年非行の実態などについて講話を実施	東区役所別館301会議室	少年愛護パトロール員	25	東警察署生活安全課長 平野大紀氏			東区青少年育成連絡協議会	
	10月5日	東区少年愛護パトロール員研修会において、講話と研修を実施	東区役所別館301会議室	少年愛護パトロール員 校区青少年育成連絡協議会等会長	21 1	福岡市教育委員会指導部安全・安心推進課主査 池田 武裕氏			東区青少年育成連絡協議会	
博多区	6月5日	博多区少年愛護パトロール員研修会	博多区役所	博多区少年愛護パトロール員	22	春日・大野城・那珂川防犯指導員連絡会 会長 金子 昌隆氏				少年愛護パトロール員の青少年非行防止に対する理解をより深めた。
	20				元少年育成指導官 堀井智帆氏					
	11月18日				約100	—		博多保護区保護司会	博多署 博多駅商店連合会 青少年育成連合会等	啓発物を配布し、広く啓発活動を行った。
	7月6日	博多区青少年健全育成・非行防止キャンペーン	博多駅前	博多保護区保護司会・青少年育成連合会等						

中央区	7月	「社会を明るくする運動」中央区大会	中央市民センター	市民	450	水谷 修氏		中央保護区保護司会 中央区更生保護女性会 福岡保護観察所 中央区役所		子どもたちの非行防止や薬物乱用防止などに取り組む水谷氏より、子どもたちが今直面している問題についての講演を実施。
	2月	青少年指導者研修	中央区役所	青育連等	26	福岡少年サポートセンター 金田律子氏				薬物乱用防止についての講演を実施。
南区	R7.3.7	南保護区保護司会主催の薬物乱用防止キャンペーンに協力し、街頭キャンペーンを行った。	大橋駅西口	南保護区保護司会 南区役所 南警察署	計20人程度	—	リーフレット等啓発物	南区保護区保護司会(主催)	南警察署	区からは、ため蔵くん着ぐるみも参加し、広報啓発活動に取り組んだ。
城南区	7月12日	薬物乱用防止を含む、青少年非行状況を報告するとともに、厚労省・こども家庭長作成の啓発物の配布を行った。	城南区役所 大会議室	校区青育団体、子ども会育成会関係者	30	—	リーフレット等啓発物			啓発物を配布し、広く啓発活動を行った。
	11月10日	「ふれあい城南フェスティバル」の会場において、薬物乱用防止にかかる啓発物の配布を行った。	福岡大学	小中学生、保護者、地域住民等の来場者	約3200	—	啓発物	ふれあい城南運営委員会	保健医療局	啓発物を配布し、広く啓発活動を行った。

早良区	6月25日 および 11月26日	早良区少年愛護パトロール員研修会において、少年非行の実態などについて講演等を実施。	早良市民センター 早良区役所	早良区少年愛護パトロール員	第1回:27名 第2回:41名	早良警察署生活安全課係長、早良区非行防止対策推進員		早良警察署	少年愛護パトロール員の少年非行に対する理解を深めることができた。
	2月20日	早良区青少年育成連絡協議会(全体会)において、薬物乱用防止の啓発物を配布。	早良市民センター	早良区青少年育成連絡協議会委員	24	—	啓発物	保健医療局	青少年育成連絡協議会委員に、薬物乱用防止についての意識を啓発することができた。
	2月23日	青少年を対象としたイベント「早良区ゆめ未来フェスタ」において、来場者へ啓発物を配布。	早良体育館	中学生保護者等	約300	—	啓発物	保健医療局	啓発物の配布により、広く啓発活動を行うことができた。
西区	5月	西区少年愛護員研修会において、薬物乱用をはじめとする少年非行の実態などについて講話を行った。	西区役所会議室	西区少年愛護員・西区青少年育成連絡会委員	15	福岡少年サポートセンター 金田律子氏		西区青少年育成連絡会	
	7月	青少年の非行・被害防止強調月間に合わせ、各校区でキャンペーングッズを活用(公民館にグッズを設置し自由に持ち帰ってもらう等)し啓発活動を行った。	各校区	市民	約3,000 (啓発物資配布数)	—	啓発物資	西区青少年育成連絡会	
	11月~1月	子ども・若者育成支援強調月間に合わせ、各校区で街頭キャンペーンを実施、キャンペーングッズの配布を行った。	各校区	市民	約5,000 (啓発物資配布数)	—	啓発物資	西区青少年育成連絡会	

令和6年度活動報告

所属	福岡市教育委員会 指導部 中学校教育課	担当者	高橋 健二	電話番号	711-4639	内線(3722)
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「第5次薬物乱用防止五か年戦略」を受けて、喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育の組織的・計画的な推進を図る。 ・指導者研修会(各校1名悉皆)は、大学准教授(医師)の講話や、県の薬務課より大麻乱用防止対策についての説明を計画。 ・教科及び生徒指導との連携を図る、喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育の計画。 						
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育指導者研修会の開催 ・各学校における喫煙・飲酒・薬物乱用防止教室の実施 ・全小中学校における健康教育年間指導計画の作成と教育指導計画の位置づけ 						
対象者	市内の小学生、中学生、高校生及び教職員						
全体の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・「第5次薬物乱用防止五か年戦略」を受けて、喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育の組織的・計画的な推進を図る。 ・指導者研修会(各校1名悉皆)は、大学准教授(医師)の講話や、県の薬務課より大麻乱用防止対策についての説明を計画。 ・教科及び生徒指導との連携を図る、喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育の計画。 						
令和7年度の 取組方針、 改善事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育指導者研修会の開催 ・各学校における喫煙・飲酒・薬物乱用防止教室の実施 ・全小中学校における健康教育年間指導計画の作成と教育指導計画の位置づけ 						

令和6年度の年間活動報告

実施時期	活動内容	実施場所	参加者(対象者)		講師等	教材、資材	連携機関		活動ごとの評価
			種別	人数			共催	協力	
6月	各学校における喫煙・飲酒・薬物乱用防止教室の実施状況調査		小学校	146校					全校作成・提出
			中学校	71校					
			高校	4校					
5～3月	各学校における喫煙・飲酒・薬物乱用防止教室		小学校	146校	学校薬剤師、少年サポートセンター等				全校実施
			中学校	71校					
			高校	4校					
6月12日	喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育指導者研修会		教職員	229	九州大学准教授眞崎義憲 薬務課主任技師 平井 祥一氏				専門的な内容で各校の防止教育が推進できる内容で実施
6月～11月	各学校における喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育研修会		教職員	市立学校職員	学校薬剤師、少年サポートセンター、学校管理職等				各学校の実態に応じた内容の充実

令和6年度活動報告

所属	市民局防犯・交通安全課	担当者	山中	電話番号	711-4054	内線(1772)		
目標	市民に対する違法薬物乱用防止啓発活動の推進								
活動内容	防犯の出前講座や新大学生防犯強化月間等において薬物乱用防止の啓発を行う。								
対象者	市民								
全体の評価	市民に対する違法薬物乱用防止啓発活動の推進の実施を行った								
令和7年度の 取組方針、 改善事項等	引き続き防犯の出前講座や新大学生防犯強化月間等において薬物乱用防止の啓発を行う。								
令和6年度の年間活動報告									
実施時期	活動内容	実施場所	参加者(対象者)		講師等	教材、資材	連携機関		活動ごとの評価
			種別	人数			共催	協力	
通年	出前講座	福岡市内	大学生及び 専門学生等	-	生活安全 専門員	パワーポ イント、DVD 等			危険ドラッグの危険性 及び後遺症等の啓発 を行う。
4月～5月	新大学生防犯強化月間での啓 発	福岡市内大 学	大学生	23校	-	メール送信		各大学	薬物乱用やオーバ ードーズについて啓発を 行う。

令和6年度活動報告

所属	各区健康課、精神保健・難病対策課	担当者	田中	電話番号	711-4377	内線	(199-612)		
目標	薬物に関する問題を抱える当事者とその家族等に対する相談を実施し支援する。								
活動内容	相談業務(窓口、電話)								
対象者	薬物依存等の問題を抱える当事者とその家族								
全体の評価	相談件数は1件と、前年度に比べ大幅に減少した。依存に関する本人からの相談に対し助言を行った。								
令和7年度の取組方針、改善事項等	引き続き窓口・電話での相談対応を行い、薬物乱用防止を推進していく。								
令和6年度の年間活動報告									
実施時期	活動内容	実施場所	参加者(対象者)		講師等	教材、資材	連携機関		活動ごとの評価
			種別	人数			共催	協力	
通年	薬物に関する相談業務	各区健康課、精神保健・難病対策課	窓口	0	保健師、精神保健福祉士、精神保健福祉職員				相談件数は減少し、中央区健康課での1件のみ。
			電話	1					

令和6年度活動報告

所属	保健医療局精神保健福祉センター	担当者	山田・渡辺	電話番号	737-8825	内線	(192-6620)		
目標	薬物依存問題に関して、幅広い関係機関との連携や市民への情報発信に努め、依存症について広く市民の理解を得る。								
活動内容	薬物依存問題に関する相談、依存問題で悩む家族のための教室、薬物依存者回復支援プログラム、依存症支援者連携会議								
対象者	薬物依存症当事者・家族、市民、行政・医療・保健・福祉・司法関係者等で薬物依存問題に関わる職員								
全体の評価	<ul style="list-style-type: none"> 薬物依存に関する相談件数は、新型コロナウイルス蔓延と同時に以前の約1/2～1/3程度に減少しており、行動自粛要請解除後も低い水準を維持している。令和6年度は前年度よりもわずかに相談件数が増えており、前年度よりも多くの市民に必要な支援等に関する情報を提供することができた。 教室やプログラムについては、参加者が少なかったため年度後半から病院等を回り広報に力を入れている。今後の参加者の状況を見て引き続き対応を検討していく。 								
令和7年度の取組方針、改善事項等	<ul style="list-style-type: none"> 専門電話相談の頻度を令和6年度12月から増やしており、これを維持する。また、当センターの出前講座として依存症のテーマを新設することを検討する。 教室やプログラムについては、現状や運営体制を分析し、今後の対応を検討していく。 								
令和6年度の年間活動報告									
実施時期	活動内容	実施場所	参加者(対象者)		講師等	教材、資料	連携機関		活動ごとの評価
			種別	人数			共催	協力	
通年	<ul style="list-style-type: none"> 依存症専門電話相談 火・木、第1・3水 10時～13時 依存症専門医師面接相談 月1回(予約制) 	精神保健福祉センター	電話	53	精神科医 臨床心理士 精神保健福祉士				コロナ前の水準に比べて相談件数は減少しているが、前年度よりはわずかに増加した。
通年	依存問題(アルコール・薬物等)で悩む家族のための教室	あいれふ	家族	45	精神保健福祉センター職員など	ワークブック			薬物依存で悩む家族の参加が減ったため、年度後半から市内の病院や関係機関等を回り広報活動に力を入れている。
通年	薬物依存症者回復支援プログラム	あいれふ	当事者	40	精神保健福祉センター職員など	ワークブック			参加者が少なかったため、年度後半から市内の病院や関係機関等を回り広報活動に力を入れている。
9月、2月	依存症支援者連携会議	市民福祉プラザ	支援機関	66	-				活発な意見交換が行われ、課題や連携の必要性などの共通理解が深まった。

令和6年度活動報告

所属	保健医療局保健所地域衛生部医薬務・衛生推進課	担当者	嶋田	電話番号	791-7263	内線(199-922)
目標	関係部署や地域住民との連携を図り、薬物乱用防止啓発をより充実させる。 若年層に対し大麻等の危険性について重点的に啓発を行う。					
活動内容	薬物乱用防止啓発キャンペーンイベント等により広く市民への啓発を行うほか、昨年度から引き続き若年層への啓発を重点目標とし、大学関係者等との連携のもと、学生への啓発を行う。					
対象者	市民					
全体の評価	関係者等との連携のもと、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動街頭キャンペーンやNO DRUG、KNOW DRUGキャンペーン等により、広く市民へ啓発を実施した。 大学へのリーフレット配布や学内LANによる啓発メールの送信により、若年層への啓発を行った。					
令和7年度の取組方針、改善事項等	引き続き、関係部署や地域住民との連携を図り、薬物乱用防止啓発をより充実させるとともに、若年層に対して重点的に啓発を行う。 また、オーバードーズに関する相談窓口の周知等、SNSを活用した啓発を行う。					

令和6年度の年間活動報告

実施時期	活動内容	実施場所	参加者(対象者)		講師等	教材、資材	連携機関		活動ごとの評価
			種別	人数			共催	協力	
4月	学校へのリーフレット配付による啓発		大学・短期大学			リーフレット			新入学・新学期の時期に各学校で啓発の機会を設けた。
4～5月	学内LANによる啓発メールの送信 (新大学生防犯強化月間での啓発)		大学・短期大学				市民局 市内大学・短期大学		福岡市内に所在する大学及び短期大学の新生生に対し薬物に関する啓発を行った。
5月～6月	不正大麻・けしの啓発 不正けしの抜去	各衛生課 市内各地域	市民				各衛生課 他		市内に自生していた9,099株を除去した。
6月～9月	市販薬のオーバードーズに関するアンケートの実施		市民 (主に学生)				市内大学・協議会幹事等		オーバードーズに関する基礎データの収集のため、アンケート調査を行った。

6月～7月	「ダメ。ゼッタイ。」普及運動 街頭キャンペーン		市民 (主に学生)			ティッシュ、 リーフレット		市薬剤師 会、保護司 会、該当区 衛生課、大 学生	市内の大学において、 大学生に向けた啓発 資材の配布を行った。
キャンペーン期 間7月～8月	薬物乱用防止啓発 NO DRUG、KNOW DRUGキャン ペーン		市民、学生 等			ラジオ	市薬剤師 会、FM福 岡	市内大学、 県警察、福 岡県等	多くの関係団体の協 賛・協力や参加を得 て、さらにメディアによ る広報を活用し、広く 市民に効果的な啓発 を行った。
7月	政令指定都市薬剤師会統一薬 物乱用防止キャンペーン		市民			リーフレット 等	主催)市薬 剤師会		資材500部を配布 した。
通年	・区役所等でのデジタルサイ ネージの放映 ・薬物乱用防止啓発ポスターの 配付、掲示 ・学校や関係課への啓発資材 の提供 ・薬物乱用防止啓発ホーム ページ	本市庁舎内 他	市民			動画 ポスター 啓発資材 ホームペー ジ			広報啓発の充実を 図った。



やくぶつ もう薬物をやめたい・・・

おも かつ
と悩んでいる方へ

きゅうしゅうこうせいきよくま やくとりしまりぶ せんもん しかく も しょくいん
九州厚生局麻薬取締部では、専門の資格を持った職員が、

やくぶつ つか せいかつ ほんき ねが かつ しえん
薬物を使わずに生活したいと本気で願う方の支援をしています。

そうさぶもん どりつ じぎょう きこせ
〔捜査部門からは独立した事業として行っています〕



く かけ おも じつげん てつだ
「繰り返したくない…。」その思いの実現をお手伝いしています。

なや いっしょ かんが
ひとりで悩まず、どうしたらよいか一緒に考えませんか。

こべつたいおう けいぞくてき しえん
1. マンツーマン（個別対応）の継続的な支援です

めんだん つき かい しえんきかん おおむ ねんかん きぼう こうりよ
※面談は月1回・支援期間は概ね2年間。希望を考慮します

やくぶつ さ う
2. 薬物を避けるためのプログラムが受けられます

たんとくしゃ しかく も せんもんしょくいん
3. 担当者は資格を持った専門職員です

めんだん にちじ つごう き
4. 面談日時はあなたの都合に合わせ決めることもできます

めんだん かのう
5. オンラインでの面談も可能です

とくちょう
特長

げん しょうちゅう がた しえんたいしょうがい かぞく パートナー とう そうだん かのう
※現に使用中の方は支援対象外です。ご家族・パートナー等からの相談は可能です。

■ 実施場所

おも ふくおかだいにごうどうちようしゃ はかたえき とほ ふん こくらごうどうちようしゃ
主に福岡第二合同庁舎（博多駅から徒歩6分）、小倉合同庁舎
にしこくらえき とほ ふん めんだん おこな
（西小倉駅から徒歩8分）で面談を行っています。

■ 利用料金

むりよう こうつうひ つうしんりようきん じ こ ふ た ん
無料。ただし、交通費や通信料金などは自己負担となります。

■ 支援内容

なや こま やくぶついぞん
悩みやお困りごとについての『カウンセリング』、『薬物依存からの
かいふく にんちこうどうりようほう とう こべつ めんだん おこな
回復プログラム（認知行動療法）』等を個別の面談にて行いま
ひつよう おう ちいき しせつ びょういんとう しょうかい かのう
す。必要に応じて、地域の施設や病院等の紹介も可能です。

■ ご家族などへの支援

かぞく ゆうじん かた そうだん ずいじ う
ご家族や友人の方からの相談も随時お受けしています。

こうせいろうどうしやう きゅうしゅうこうせいきよく まやくとりしまりぶ
厚生労働省 九州厚生局 麻薬取締部

さいらんようぼうししえんいん
再乱用防止支援員

TEL 092-472-2342（直通）

ふくおかしはかたはかたえきひがし ふくおかだいにごうどうちようしゃ はかたえき とほ ふん
福岡市博多区博多駅東2-10-7、福岡第二合同庁舎（JR博多駅から徒歩6分）

福岡市薬物乱用防止対策推進協議会
令和8年1月13日(火)16:00~17:30
あいれふ7階第2研修室

「大麻とODの最新情報から
薬物乱用防止を考える！」

三島 健一 福岡大学薬学部
薬学教育学, 生体機能制御学

16号館(2005年3月)
17号館(2009年3月)

福岡大学
9学部約2.5万人

カンナビノイド (cannabinoid, CB₁, CB₂) 受容体の分布

CB₁ 受容体
 脳/中枢神経/脊髄
 大脳新皮質, 梨状皮質, 海馬, 扁桃体
 小脳, 脳幹,
 大脳基底核: 淡蒼球, 黒質
 嗅球
 視床, 視床下部
 下垂体

CB₂ 受容体とCB₁ 受容体
 眼: 網膜色素上皮細胞 (CB₁, CB₂)
 心臓 (CB₁, CB₂)
 胃 (CB₁, CB₂)
 膵臓 (CB₁, CB₂)
 消化管 (CB₁, CB₂)
 骨 (CB₁, CB₂)

リンパ系・免疫系システム
 脾臓 (CB₂)
 胸腺 (CB₂)
 扁桃腺 (CB₂)
 血液: リンパ球 (CB₂)
 皮膚: 角化細胞 (CB₂)

肝臓: クッパ細胞,
 肝細胞, 肝星細胞
 腎臓
 卵巣: 生殖腺
 子宮: 子宮層
 前立腺: 上皮細胞, 平滑筋細胞
 精巣: 生殖腺,
 ライソソーム細胞, 精細胞

カンナビノイドとは, 大麻草 (*Cannabis sativa*, カンナビ・ス・サティバ)

大麻草中の多彩な成分: 545化合物
カンナビノイド (104化合物):
 21個炭素C, 水素H, 酸素O
 その他 (441化合物)

大麻草
545化合物

104化合物
カンナビノイド類
構造: C, H, O
21個の炭素
10サブクラス
Cannabis sativa

441化合物
テルペン類
フラボノイド類
アルカロイド類
脂肪酸
アミノ酸など

カンナビノイド類 (10サブクラス)
 (2) Δ⁸-THC
 (2) Cannabinodiol (CBND)
 (3) Cannabicyclol (CBL)
 (5) Cannabielsoin (CBE)
 (8) **Cannabidiol (CBD)**
 (8) Cannabichromene (CBC)
 (9) Cannabitriol (CBT)
 (10) Cannabinol (CBN)
 (17) Cammabigerol (CBG)

(18) Δ⁹-THC
 (22) 未分類

テルペン類: イソプレネン
 β-caryophyllene (β-CPH)

THC
 CBD

Pertwee, R. B. (ed), The Handbook of Cannabis, Oxford Univ. Press, 2014, Nature, 525, S2, 2016改定

大麻の疫学的特性

薬物事犯検挙状況の推移 (平成14~令和6年)

全検挙人員 13462
 覚せい剤 6124
 大麻 6078

大麻の年齢別検挙状況 (令和6年):
 50歳以上: 20歳未満
 40~49歳: 30歳未満
 30~39歳: 73.7%
 20~29歳: <高い初犯率> 72.8%

覚せい剤の年齢別検挙状況 (令和6年):
 50歳以上: 20歳未満
 40~49歳: 30歳未満
 30~39歳: 63.5%
 40~49歳: <高い再犯率> 66.6%

令和6年の薬物・統制情勢 (警察庁刑事局組織犯罪対策部薬物統制対策課) R7/4月改定

5

サイバ-空間における大麻の実態調査

【サイバ-空間】
興味・延べ数

Google Trends,
Yahoo! DS. INSIGHT
X (旧Twitter)



時間的制約なし
グローバルな取引

ネットショッピング感覚
心理的・物理的ハードル低下

技術的匿名性
犯罪取締のハードルの上昇

【現実世界】
アンケート調査



人間との接触が不可欠

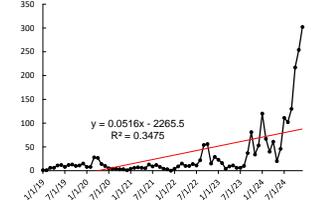
人間関係に依存する
地理的な制約が強い

7

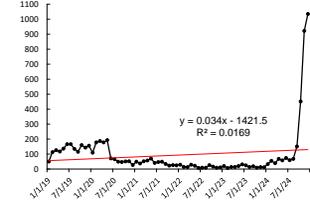
2019-2024年における日本のX (旧Twitter) を使った検索数の推移

Google検索とYahoo検索を用いた大麻解析では増えていない

(A) 手押し & ☹️



(B) 手押し & 野菜



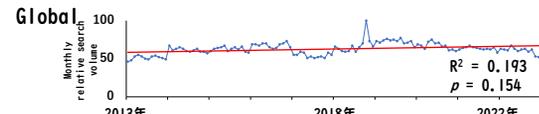
各年毎の“野菜AND手押し”の同一検索者の頻度の高い検索
↓
テレグラム
匿名性の高いメッセージアプリケーション。「ルビ-強盗事件(7/17ビ-ン)」

牛尾聡一郎ら, 第33回医療薬学会, 2023/11/3-5, 仙台

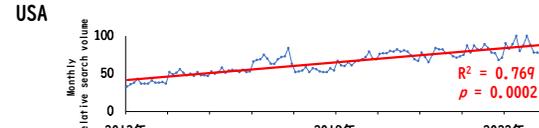
6

サイバ-空間における大麻の情報探索行動解析

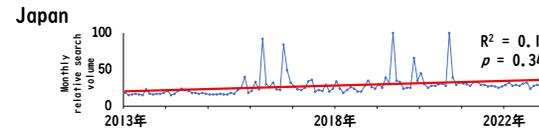
Global



USA



Japan



8

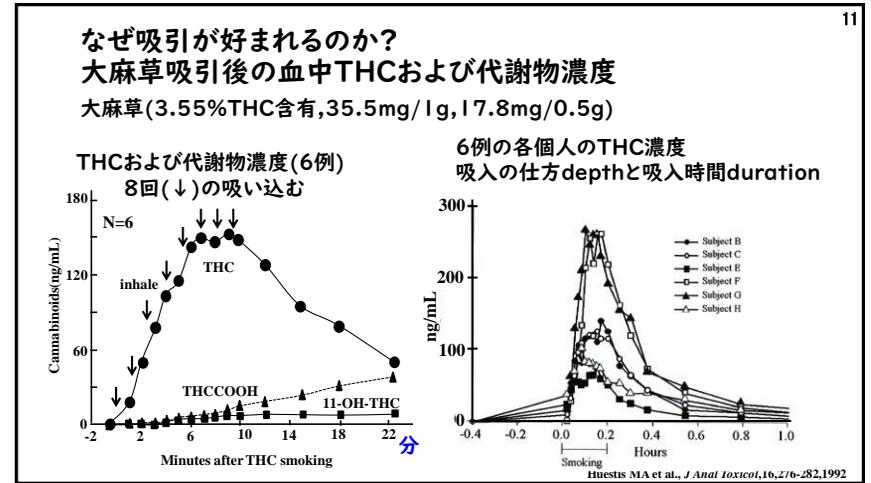
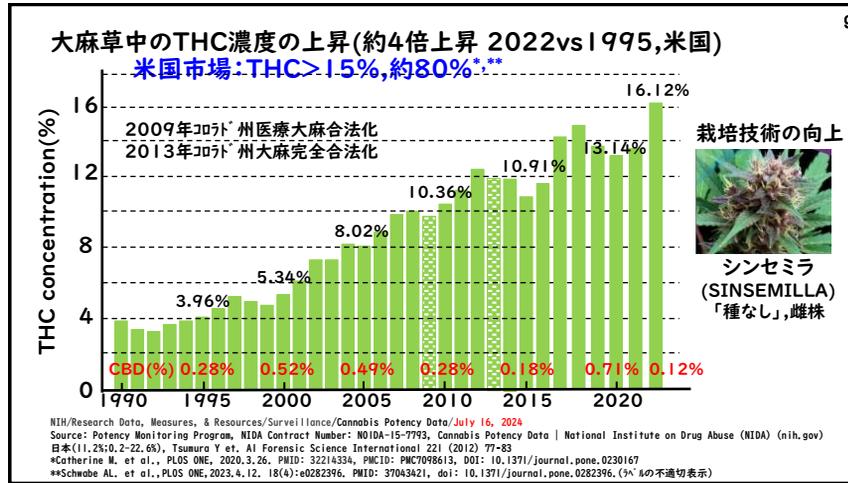
昔の大麻とは“中身”がまったく違う

- 大麻草の主成分THC濃度の上昇 (3%から15%以上)
- 大麻由来製品の多様化 (食品から化粧品、医薬品など、品質)
- 摂取方法の多様化 (経口、貼付など)
- 半合成カンナビノイドの登場(新・危険ドラッグ)

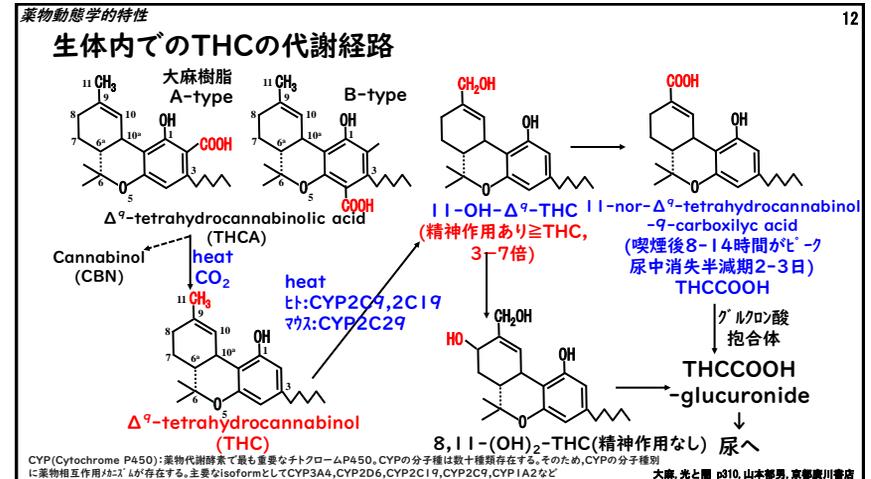
↓

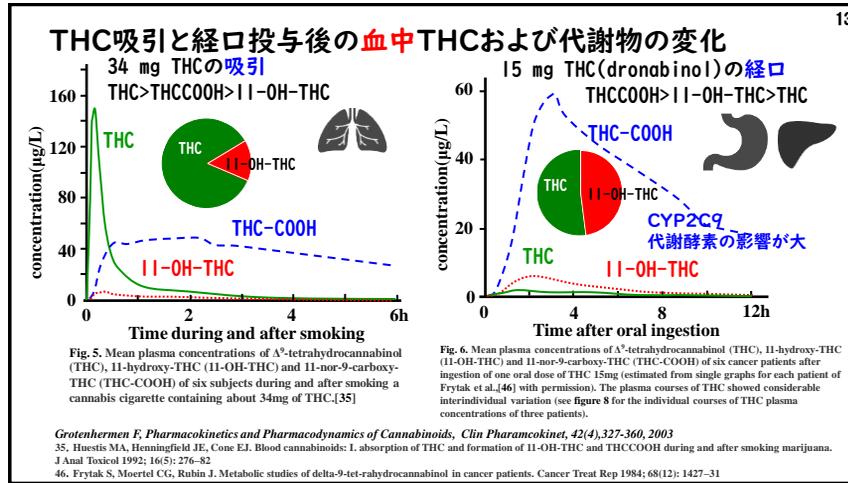
- 大麻使用障害の増加
- 大量摂取による急性中毒 (子供・ペット)
- 受動喫煙 (子供)
- 新たな疾患の登場：カンナビノイド嘔吐症候群 (Cannabinoid hyperemesis syndrome, CHS)

福岡大学
FUKUOKA UNIVERSITY



- 形が変わる大麻関連製品
摂取方法で大麻成分の作用(効果,持続時間など)が異なる
1. 乾燥大麻,植物片:
マリファナ(marijuana), Weed, ハンプ, ジョイント
 2. 大麻樹脂:ハッシュ,チャラス
 3. 大麻ワックス:濃縮大麻,粘性の黄色
 4. 液状大麻,大麻リキッド
電子たばこカートリッジ 入り的大麻濃縮液
濃縮大麻,ハッシュオイル,ハニオイル
 5. 食品の形状:チョコ,ガム,クッキー,グミ,ケーキ,ブラウニー,バター,アルコールなど
 6. 化粧品,クリーム,サブリメントなど
 7. 混入大麻:PCP,ヘロインの混入したもの
 8. 危険ドラッグ:THC類似体の混入(JWH-018, HU-210など)
半合成カンナビノイド (THCH, THCP, HHC, THC-O, HHC-O, THC-OAc etc)
- 令和5年3月以降,新たに指定された2物質(Δ^9 -THCH, Δ^8 -THCH)を含むことが疑われる物品を摂取したとされた後に救急搬送された事例が少なくとも全国で9件報告(2023/8/4,指定薬物へ)





乱用薬物の検出可能期間(検査キット)

大麻は貯留性のため、長期間の検出力を示す。

乱用薬物	血液(時間)	尿(日)	毛髪(日)
LSD	3hrs	3days	3days
アルコール	12hrs	5days	90days
アンフェタミン(覚醒剤)	12hrs	3days	90days
バルビタレート(麻酔薬)	48hrs	4days	90days
コカイン	48hrs	4days	90days
大麻(THCCOOH)	336hrs/14days	30days	90days
Heroin	12hrs	4days	90days
ヘロイン	48hrs	4days	90days
メタンフェタミン(覚醒剤)	37hrs	6days	90days
モルヒネ	8hrs	6days	90days

[https://www.businessinsider.com/How Long Various Drugs Stay in Your Body \(businessinsider.com\),DRUGS ic;Mayo Clinic改変](https://www.businessinsider.com/How Long Various Drugs Stay in Your Body (businessinsider.com),DRUGS ic;Mayo Clinic改変)

大麻の摂取方法と動態学的特徴

摂取方法	吸引(喫煙)	飲食(エディブル,edible),飲酒
例	ジョイント(紙巻タバコ),パイプ,ケトル,特殊な水パイプ装置(ウォーターライザー)	ガム,クッキー,チョコレート,ケーキ,ビスケット,アイスクリーム,菓子,グミ,ビール,アルコール
摂取しやすさ	簡便	より簡便
即効性	早い	遅い
最高血中濃度到達時間	6-10分	1-5時間
持続時間	短い(2-4時間)	長い(4-8時間)
摂取量の調製	しやすい	しにくい(過剰摂取)
その他	有害なタバコ,電子タバコ	中毒へ(11-OH-THC)
生体利用率(範囲)*	10-27%(2-56%)	6-10%(2-14%)
THC最大血漿濃度(投与量)**	33-162ng/mL(10-33.8mg)	3-14.5ng/mL(15-3x15mg)
性差	男性>女性	男性<女性

Grotenhermen F. Pharmacokinetics and pharmacodynamics of cannabinoids. *TableIII.**TableIV改変 Clin Pharmacokinetics. 2003;42(4):327-60. doi: 10.2165/00003088-200342040-00003.PMID: 12648025
*Huestis MA, Chemistry & Biodiversity, 4,1770-1804,2007

大麻は依存形成速度が速い

ニコチン,アルコール,大麻,コカインによる依存の比較(2004-2005 Wave2 NESARC)

	大麻	ニコチン	アルコール	コカイン
対象者	7,389人	15,918人	28,907人	2,259人
依存率	8.9% 13%(10-15%)*	67.5%	22.7%	20.9%
形成速度	5年	27年	13.5年	4年
50%依存率形成年数	5年	27年	13.5年	4年

米国の大麻依存症 1 in 10人

Lopez-Quintero C et al., Drug Alcohol Depend. 2011;115(1-2):120-30. Probability and predictors of transition from first use to dependence on nicotine, alcohol, cannabis, and cocaine: results of the National Epidemiologic Survey on Alcohol and Related Conditions (NESARC). 改変
*Leung J et al., What is the prevalence and risk of cannabis use disorders among people who use cannabis? a systematic review and meta-analysis. Addict Behav. 2020 Oct;109:106479. doi: 10.1016/j.addbeh.2020.106479. Epub 2020 May 20. PMID: 32485547 Review.

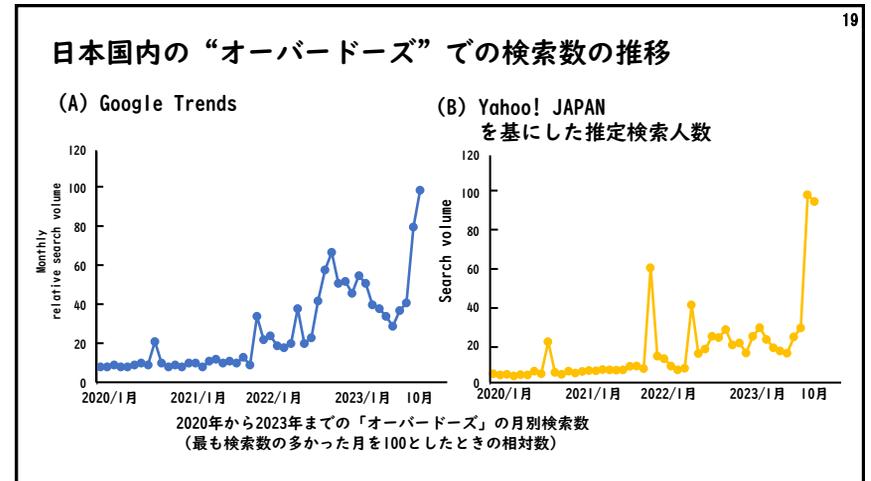
17

ニューヨーク市での救急搬送された乳幼児(0-3歳,尿)の大麻による受動喫煙

	Overall	THCCOOH(-)	THCCOOH(+)	P値
患者数	53	42	11	
男子	30(56.6%)	22(25.3%)	8(72.7%)	0.3126
女子	23(43.4%)	20(47.6%)	3(27.3%)	
年齢<12カ月	35(66.0%)	29(69.0%)	6(54.5%)	0.4781
年齢≥12カ月	18(34.0%)	13(31.0%)	5(45.5%)	
Black	17(32.1%)	9(21.4%)	8(72.7%)	0.0025
Not black	36(67.9%)	33(78.6%)	3(27.3%)	
住民が大麻喫煙者か Yes (ヘビ-シッターも含む)	8(15.1%)	6(14.3%)	2(18.2%)	0.6652
No	45(84.9%)	36(85.7%)	9(81.8%)	
住民がタバコ喫煙者か Yes (ヘビ-シッターも含む)	16(30.2%)	10(23.8%)	6(54.5%)	0.0683
No	37(69.8%)	32(76.2%)	5(45.5%)	
cotinine≥2.0ng/mL	51	40	11	
cotinine<2.0ng/mL	15(29.4%)	8(20.0%)	7(63.6%)	0.007
	36(70.6%)	32(80.0%)	4(36.4%)	
同居が喫煙禁止	46	35	11	
同居が喫煙許可	23	20(57.1%)	3(27.3%)	0.1653
	23	15(42.9%)	8(72.7%)	

コフィン(cotinine):タバコ属に含まれる7β加クトピコピコ代謝物(半減期:30時間以上)

Sangmo L et al., Secondhand marijuana exposure in a convenience sample of young children in New York City, Pediatric Research (2021) 89:905-910



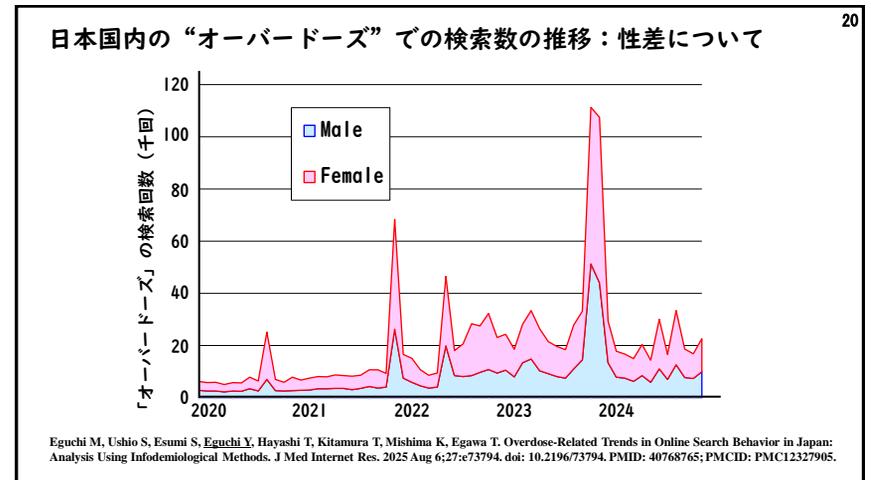
18

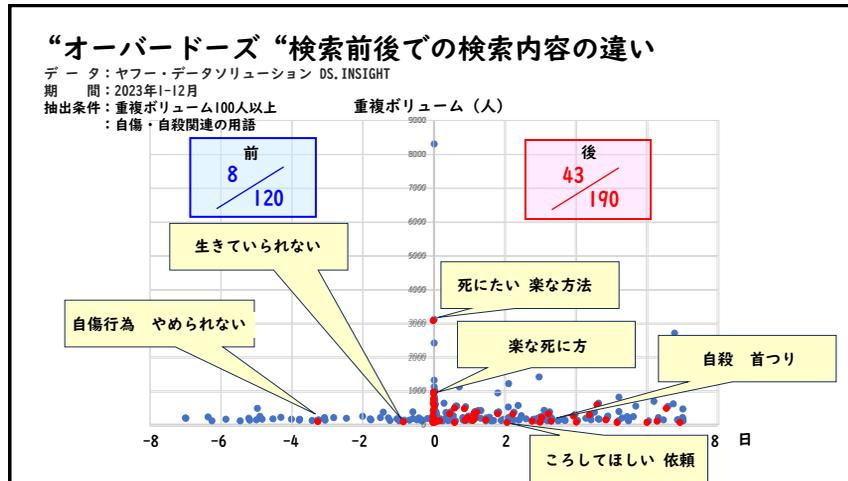
「オーバードーズ」「OD」って何？

かぜ薬や咳止め薬などを、かぜや咳の症状を抑えるためではなく、感覚や気持ちに変化を起こすために大量に服用することを指して、「オーバードーズする」「ODする」と言われている。

- ・10代の乱用の一位、女性が多い、60人に1人
- ・「生きづらさ」を抱える若者の増加→「気持ちを変えたい」
苦痛が一時的に緩和できる(快樂目的ではない)
孤独(自分一人で抱え込んでいる)
リストカット、消えてしまいたい、死にたい、手のかからない「よい子」
- ・SNSの発展
- ・ドラッグストア店舗数の拡大
- ・濫用等のおそれのある医薬品
コデイン, シフトロピドインリン酸塩,
デキストロトルファン,
フロムレリル尿素,
ジフェントラミン,
エフェリン, プソイドエフェリン, dl-メフェタミン, ギルビデム

福岡大学 FUKUOKA UNIVERSITY





22

大麻とオーバードーズ ODについて

共通

- ・サイバー空間では隠語を用いた取引の秘匿化が拡大している
- ・問題に直面した場合の相談窓口は知らない

大麻

- ・昔の大麻とは“中身”がまったく違う
- ・米国等で大麻使用障害の罹患者が増加している

オーバードーズ

- ・OD行為の背景(性差等)に精神的ストレスや心理的問題がある